

原子力規制委員会 平成27年度行政事業レビュー公開プロセス  
(取りまとめ評価)

事業番号	0022	事業名	高経年化技術評価高度化事業				
評価の集計							
廃止	—	事業全体の 抜本的な改善	—	事業内容の 一部改善	5	現状通り	1
取りまとめコメント							
<b>1. 事業の課題や問題点</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 本事業の目指すべきものが、取得した知見を高経年化対策制度及び運転期間延長認可申請制度に基づく審査に活用することだけであるならば、成果目標として不十分。</li> <li>● 高経年化対策技術基盤調査については、どのような研究成果・判断基準が審査に活用されてきたのかが不明確。</li> <li>● 事業執行のスピード感が欠如しており、入札時期の遅れにより競争性が低下。</li> </ul>							
<b>2. 上記評価を選択した理由・根拠</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 本事業の目標設定について再検討することが必要。</li> <li>● 取得した知見の審査における活用について一層の明確化・透明性の確保が必要。</li> <li>● 実験データの更なる信頼性確保を図るための取組が必要。</li> <li>● 競争性を改善するための検討が必要。</li> </ul>							
<b>3. 改善の手法や事業見直しの方向性</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 成果については、学協会規格への取り込みなどによって民間事業者の取組に反映させるとともに、諸外国と共有の上、各国の安全対策の向上に貢献することも政策的な目標とすべき。</li> <li>● こうした指標の定量化は難しいという面があるが、代替指標の設定も視野に入れつつ、年度ごとにきめ細かくプロセス評価を行うことができる仕組みが必要。</li> <li>● どのような研究成果・判断基準が審査に活用されてきたのか、一層の明確化・透明性の確保を図り、国費投入に係る説明責任を全うすべき。また、審査に活用した結果を踏まえ、更に高度化すべきテーマの検証を行うなどして、今後の事業に活かしていくべき。</li> <li>● 本事業における加速劣化試験による検証だけではなく、既に廃炉が決まった商業炉の材料から実データを得て突合・検証するなど、実験データの更なる信頼性確保を図るべき。</li> <li>● 競争性・効率性の向上を図る観点から、仕様書の見直しやテーマの包括化・細分化等を検討すべき。</li> <li>● 政策体系における事業の位置付けを踏まえた上で、スピード感をもって執行にあたるべき。</li> </ul>							